

産科医療補償制度 第109回原因分析委員会 議事要旨

日 時：2025年11月25日（火）16時00分～17時18分

場 所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：安達久美子、石川浩史、茨聰、上塘正人、川田綾子、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、豊田郁子、
馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2025年10月末時点で累計4,334件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、2022年度より実施している報告書作成期間を概ね1年に短縮する取組みの状況等が報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2025年10月末時点の累計実施件数155件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと等が報告された。

2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○2025年10月末時点で、4,301事例の原因分析報告書要約版を公表したこと、また、原因分析報告書全文版（マスキング版）については、2015年11月の開示方法変更以降、20件の利用申請を受け付け、延べ5,180事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 原因分析に関するアンケートの集計結果について

○原因分析に対する評価等を把握し今後の原因分析の質の向上に繋げることを目的に2025年9月にアンケートを実施したこと、アンケートの回答率は保護者59.5%、分娩機関57.7%であったことが報告された。

○また、「原因分析が行われたことは良かったですか」という質問に対し、「とても良かった」「まあまあ良かった」を合わせた回答が保護者で76.8%、分娩機関で89.0%とともに高かったこと等が報告された。

4) 複数事案目対応（2回目）について

○過去に、同一の診療行為に関して医学的に厳しい評価が繰り返された分娩機関に対し改善を求める「別紙（要望書）」を送付し、同分娩機関から改善取組みの報告を受けていたが、同分娩機関において、再び同一の診療行為に関して厳しい評価がされるという状況が発生した。同分娩機関に対する対応について、原因分析委員会として審議を行い、医会の改善取組み支援を受けることを強く要請する書面を2回目の「別紙（要望書）」として送付することを決定した。

5) その他

＜産科医療補償制度 新システム利用開始日について＞

○本制度の新システム「産科ネット」の利用開始日が2026年3月10日に決定したことが報告された。

以上